

# REPORT



## 「聞くことのコップ」 が満ちるまで

理事長 宮川健郎

二〇一九年六月、大阪国際児童文学振興財団編『ひとりでのよめたよ！幼年文学おススメブックガイド200』を刊行しました。全二七二ページ。私が執筆した「はじめには2000年の『子ども読書年』ころからか、子どもたちへの読み聞かせが盛んになったことから書き起こしています。

「ところが、そうしたなかで、特に親御さんから、こんな相談をうけることがあります。「うちの子どもは、読み聞かせはとも喜んで聞かれますが、なかなか一人で本を読んでくれないです。どうしたらいいでしょう」。私が「お子さんは、おいくつですか」とたずねると、「小学校に入りました」とおっしゃいます。……私は、「3年生くらいまでは、いつしよに読み聞かせを楽しんだらいいのではないですか」とこたえるのですが……。

私には、二つのイメージがあります。子どもたちの体のなかには、「聞くことのコップ」とでもいうべきものがある。そのコップに読んだあがる声を少しずつ注ぎこんでいくと、やがて、いつか溢れる。「聞くことのコップ」がいっぱいになったとき、その子は、ようやく自立した読者になるのではないだろうか。……」

しかし、実際、いま子どもたちの「聞



くことのコップ」に声を注ぐことができるような本を見つめるのは容易ではありません。そこで、評論社に発行元になっていただいて、本書を出版することにしました。2000のタイトルの選定は、当財団の土居安子と私が行い、フリー編集者の細江幸世さんにもご協力をいただきました。土居が中心になって、大阪府域の学校司書と重ねてきた勉強会がこの本の元になっています。

当財団は、たくさんの出版社、個人の方々から多数の新刊書および資料をご寄贈いただいています。ご寄贈いただいた資料を少しでも多くの方に知っていただき、活用していただきたいという思いでこのブックガイドを作成しました。また、財団の主要な活動の一つは研究です。本書を作成する基礎に、研究によって得られた子どもに関する知識や考察があることはいつまでもありません。絵本やYAなど、子どもの本のガイドが数あるなかで、幼年文学を中心に、このブックガイドは、児童文学・児童文化の振興をめざす財団の活動のなかから生まれた新しい成果です。幼年期は、人間の根っこを作る大切な時間です。ぜひ、手にとって、いらんになってください。

## ふしぎの描き方 —あまんきみこ&富安陽子の世界

日本を代表する児童文学作家であり、当財団にゆかりの深い、あまんきみこさんと富安陽子さんの講演会を行いました。

■日 時：平成30年11月10日(土) 13時45分～16時15分

■場 所：大阪府立中央図書館

■講 師：あまんきみこさん 富安陽子さん

■参加者：111人

### 講演の概要

●講演1：あまんきみこについての「ふしぎ」

まず、あまんさんに「ぎつねみちは、天のみち」を朗読していただきました。それから当財団総括専門員の土居安子が聞き手となり、「雨のすきま」というイメージについて、あまんさんにとっての「ぎつね」、幼い時から月の夜は海の底のイメージだと思っていたことの由来について語っていただきました。

●講演2：富安陽子についての「ふしぎ」

お父さんが語ってくださったホラ話「ライオンを捕る方法」、子ども時代に空からおもちが降ってきた十五夜のこと、そして、富安さんが大人になってから十五夜にされた子ども向けの行事などについて、講演されました。そして、最後に高校生の時に書いた「菜の子先生」の作品を朗読してくださいました。

●対談：「ふしぎの描き方」

講師：あまんきみこ、富安陽子  
聞き手：土居安子

まず、最初に子ども時代に「ふしぎ」だったこと、なぜ、「ふしぎ」を子どもに書くのかをうかがいました。それから、それぞれの宮沢賢治体験を語っていただきました。あまんさんは、「セロひきのゴーシュ」、富安さんは「雪渡り」が子どもの頃から好きだと言われました。それからそれぞれの作品と挿絵との関係についてお話しいただきました。

最後に、担当編集者の方々に二人に関するエピソードをうかがいました。満員で、大好評の講演会になりました。



■主 催：当財団

■後 援：大阪府立中央図書館

\*子どもゆめ基金助成活動

○報告集を販売しています  
(1000円・税別)。

## ベルギーの児童文学作家 フリー・デ・ドンケルさん来日

ベルギーの児童文学作家で、国際児童図書評議会（IBBY）の会長でもあるフリー・デ・ドンケルさんとオランダ語の翻訳家である野坂悦子さんをお招きして、国際講演会を開催しました。

野坂さんがベルギー・オランダ語圏の児童文学の歴史を概観し、ドンケルさんが哲学的な内容の自作について語り、自作の朗読もしてくださいました。

### ▲国際講演会▼

「ベルギーの児童文学」

開催日：平成30年5月27日（日）

場所：大阪府立中央図書館

講師：フリー・デ・ドンケルさん、野坂悦子さん（通訳も含む）

参加者：47人



主催：当財団  
協賛：サントリーホールディングス株式会社、株式会社富士通システムズアプリケーション&サポート、ムサシ・アイ・テクノ株式会社

\*子どもゆめ基金助成活動

○報告集を販売しています（800円・税別）。

### 連続講座

## 「幼い子どもの文学を考える」

文学の面白さを最初に覚える「幼年文学」のターゲットである五歳から八歳を中心とした読者を、大人は長い間、つかみきれないなかったという問題意識を出発点として「幼い子どもの文学」を考える連続講座を実施しました。

英米で幼年文学が成立していく歴史を辿り、作家・翻訳者・図書館員として活躍された渡辺茂男、松岡享子両氏の作品を通して、日本での受容と幼年文学の魅力について、講義を聞き、また講師と参加者で意見交換を行いました。



◆第1回 平成30年12月22日（土）

「幼年文学の歴史―英米の歴史を中心に―」

◆第2回 平成31年1月26日（土）

「幼年文学をよむ① 渡辺茂男作品を中心に」

◆第3回 平成31年2月23日（土）

「幼年文学をよむ② 松岡享子作品を中心に」

場所：大阪府立中央図書館

講師：三宅興子（当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授）

参加者：のべ202人

主催：当財団

\*子どもゆめ基金助成活動

○報告集を制作中です。発行については当財団HPをご覧ください。

## 国際アンデルセン賞の 国際選考委員として IBBYキリン大会に参加

当財団理事で日本国際児童図書評議会（JBIBY）理事の土居安子総括専門員が、国際児童図書評議会（IBBY）本部スイスで行う2018年国際アンデルセン賞の選考委員として、8月31日にギリシャ・アテネで行われた国際アンデルセン賞授賞式に参加しました。

「国際アンデルセン賞」は、2年に一度、子どもの本の世界に貢献した画家及び作家を対象に贈られる賞で、受賞者を決定する選考委員会は、ロシア、スペイン、エジプト、アルゼンチンなど世界各国の10人で構成されています。

2018年の作家賞は、角野米子さん（日本）、画家賞はイーゴリ・オレイニコフさん（ロシア）でした。



### のりものだいすき おはなしだいすき

貸切モノレールの中で絵本やおはなしを楽しみ、彩都西の会場で人形劇を観る「おはなしモノレール」を実施しました。平成30年度で12回目となります。

開催日：平成30年9月22日（土）

定員：240人

出演：職員、おはなしポップ、人形劇サークルぱれっと等

協賛：大阪モノレール、阪急阪神不動産株式会社、株式会社ベネッセコーポレーション

\*子どもゆめ基金助成事業



## 目録 童話と絵本のグランプリ

アマチュア作家を対象にした創作童話と絵本のコンクール「第35回日産童話と絵本のグランプリ」を実施しました。審査の結果、入賞作品38編を決定しました。

○応募数 童話の部2359点、絵本の部429点 計2788点

○童話の部 大賞

くぐりすくぐり

水尻 紅美子さん

絵本の部 大賞

くぐりすくぐり

松丘 コウさん

○表彰式 平成30年3月9日（土）

大阪府立中央図書館ライティホール

協賛：日産自動車株式会社

また、第34回童話の部大賞および絵本の部大賞作品をB1出版から平成30年12月に出版しました。

童話の部『ぶっぶうママ』



小路 智子/作  
はらだ ゆうこ/絵

絵本の部『くまのアーリーとあかいぼうし』



わだ あい/作

## 子どもに本を 手渡す人のために

### ●講座への講師派遣

子どもの読書活動にかかわるボランティア、司書、学校司書、教員、保護者や子どもに本に関心のある人等を対象とした、本の選び方や読書活動のあり方に関する研修や、本の楽しさを伝える講座、講演会、読書会の講師として、総括専門員、特別専門員を派遣しました。

・実施回数：47回

### ●気になる本を読む会

大阪府域の学校司書とともに、選書をはじめとする学校図書館活動に関わる研究会を実施しました。

・登録者数：26人

・実施回数：11回

### ●審査員・委員など

左記の事業に、審査員や委員として参加しました。

・第14回大阪こども「本の帯創作コンクール」

・第28回算面手づくり紙芝居コンクール審査員（箕面市教育委員会、人と本を紡ぐ会）

・平成30年度「心の輪を広げる体験作文」審査（大阪府福祉部）

・第37回人権啓発詩・読書感想文審査会（大阪府府民文化部）

・「コープのえほんでスマイル」専門委員会（大阪いずみ市民生活協同組合）

## 子どもたちに おはなしの楽しさを

### ●大阪府立中央図書館との連携

大阪府立中央図書館  
館子ども資料室では  
おはなし会6回、人形  
劇1回を開催しまし  
た。

出 演：職員、お  
はなしポップ、  
人形劇サーク  
ルぱれっと



### ●絵本づくりワークショップ

「森の素材を使って絵本をつくろう！」  
開催日：平成30年10月21日（日）  
場 所：大阪府立少年自然の家  
やワークシヨップ

吹田市立山田駅前図書館でのおはなし会（2回）  
出 演：職員、おはなしポップ  
豊中市立東丘小学校等での小学生を対象とした、物語体験ワークシヨップ（4回）

### ●児童養護施設でのおはなし会

大阪府域の児童養護施設ではおはなし会や人形劇を開催しました。  
おはなし会6回  
人形劇 3回  
出 演：おはなしポップ  
人形劇団クラルテ

\*一般財団法人 高津成和会助成事業

### ●「日中韓子ども話交流2018」

日本、中国、韓国の子どもたちと一緒に絵本作りをしました。  
開催日：平成30年8月16日（木）  
23日（木）  
場 所：天童市（山形県）、東京  
参加者：1000名

主 催：日中韓子ども話交流  
実行委員会

### ●「おはなしポップ」と「人形劇サークルぱれっと」の財団事業への参画

子どもと本をつなぐさまざまな事業に当財団所属のボランティアグループに参画していただきました。  
また、「おはなしポップ」は、絵本やおはなしに関する研修を3回「ぱれっと」は新作の準備をしました。

### ●街頭紙芝居の美演

「むかしの紙芝居を楽しもう」  
開催日：平成30年7月8日（日）  
場 所：大阪府立中央図書館  
出 演：一般社団法人塩崎おとぎ紙芝居博物館  
主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館、当財団  
協 力：一般社団法人塩崎おとぎ紙芝居博物館



### ●マンガのひみつ大冒険!

平成28年度に開設した「マンガのひみつ大冒険」は、子どもと子どもに読書をすすめる大人を対象に、マンガを通して読書の楽しさや広がり、インターネットで検索したり、遊んだり、体験しながら知ることのできる読書活動支援ソフトです。



協 力：株式会社ジャスティス  
1月には、サイトを紹介した後、マンガのビブリオバトルを行うイベントをクレオ大阪中央で行いました。  
開催日：平成31年1月20日（日）  
主催・場所：クレオ大阪中央（大

阪市立男女共同参画センター中央館）

### ●ほんナビきつず

子どもの本をあらすじ・キーワードから探す

「ほんナビきつず」はインターネットで楽しく遊びながら、ことばや感情を選ぶことによってお気に入りの本に出会うシステムです。  
キーワード、あらすじは当財団で独自に作成。30年度は1602冊の本を追加しました。  
共同開発：株式会社富士通システムズ  
アプリケーション&サポート

### ●ドキドキ絵本づくり for Kids

平成25年度に開設した、インターネットを見ながら絵本の作り方を体験することができるウェブサイトで「ドキドキ絵本づくり」は、iPadについて、チラシの配布や、ワークショップ等を通して普及を行いました。  
協 力：株式会社ジャスティス

### ●本の海大冒険の充実

平成26年度にリニューアルしたインターネットで読みたい本が探せるサイト「本の海大冒険」に新刊図書データの追加し、いっそうの充実を図りました。  
協 力：株式会社ジャスティス

### ●ツイッターでつぶやいています

平成29年7月からツイッターで営業日は毎日、いろいろな情報を発信しています。ぜひ、フォローしてください。  
[https://twitter.com/CLO\\_News](https://twitter.com/CLO_News)

## 内容 もりだくさん!

メルマガ発行、  
ぜひ会員登録を

毎月メルマガジンを発行しています。発行は、月1回、毎月20日に配信しています。登録は無料です。皆さまの登録をお待ちしています。

令和元年8月20日現在、登録数は3052人です。内容例は左記のとおり。

1 お知らせ  
財団からのお知らせコーナー

2 コラム

1) 新刊書の紹介  
専門職員が理事長、児童文学者と毎月一冊の本を選んで対談します。本に対する新しい見方が発見できます。

2) 児童文学作家や作品についてのエッセイ  
宮沢賢治作品などについて興味深いポイントや、理事長と専門職員が交互に紹介します。

3) 子どもの本の珠玉のこぼれ

子どもの本や児童文学の評論書にある、印象深い言葉を紹介するコーナーです。

4) 行って来ました!

展示会や映画、講演会など、子どもの文化に関わる催しのレポート

3) 全国のイベント紹介

他団体等が実施するイベントを紹介

4) プレゼント

今号でとりあげた本やイベントグッズを抽選でプレゼントします。

## 当財団編

### が評論社から刊行されました

## ひとりでもめたよ！ 幼年文学おすすめブックガイド200

子どもにとって絵本から読物という二つのジャンルを横断するのは時に困難を伴います。優れた幼年文学は、幼年期（5歳～8歳）くらいまでの子どもにも文学の楽しさを伝えます。そこで幼年期にぜひ楽しんでも欲しい幼年文学に、物語性の強い絵本とノンフィクションも加えて200冊を紹介するブックガイドを編集しました。（2019年6月 A5判272ページ 2,500円＋税）



### 本書の特徴

- ・編者：宮川健郎・土居安子（が選んだ200冊の本の紹介と楽しみ方が書かれたブックガイド）
- ・司書・児童文学研究者・書店員など65人が執筆
- ・作家（あまんきみこ、いとうひろし、神沢利子、たかどのほつこ、富安陽子）によるエッセイ5本
- ・幼年文学の特徴についてのコラム10本
- ・巻末にブックトークや本の紹介に使える「キーワード索引」つき

## 子ども読書活動の推進のために

### 大阪府子ども読書活動推進施策への協力

大阪府が推進する「第3次子ども読書活動推進計画」に基づき、子ども読書活動に関わる他の団体・組織とともに、府内の子ども読書活動推進に努めました。

具体的には「すべての子どもに本を―子どもの居場所における読書活動支援講習会（平成30年9月26日、大阪府立大学）や「なんばカンファレンスルーム」の講師を務めるとともに、堺市子ども読書活動推進計画懇話会のメンバーとして「堺市子ども読書活動推進計画」の策定の助言を行いました。

## 共同研究を行いました

●大正期における児童出版文化史の研究―実業之日本社の果たした役割―  
大正期の児童出版文化についての調査研究を外部研究者とともに行いました。

- ・研究会の開催（4回）
- ・研究メンバー：浅岡靖史（白百合女子大学教授）、香川雅信（兵庫県立歴史博物館学芸課長）、柿本真代（愛媛大学講師）、酒井昂代（愛知淑徳大学教授）、松本育子（刈谷市美術館館長代理）、日黒強（神戸大学准教授）、宮川健郎（当財団理事長、武蔵野大学名誉教授）、遠藤純（当財団特別専門員／武庫川女子大学准教授）、小松聡子（当財団特別専門員）、土居安子（当財団総括専門員・研究代表者）
- 日本児童文学学会第57回研究大

会 フラウンドテーブル「視覚的要素からみた実業之日本社の雑誌」(平成30年11月25日) (日) 文教大学越谷校舎  
\*独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究 (C) 平成29～31年度

●近現代日本の社会運動組織による「スクリーンのメディア」活用  
の歴史・地域的展開  
昭和期のスクリーン・メディアについての調査研究を外部研究者とともに行いました。

・研究メンバー：アンニー（日本映画大学特任教授、岡田秀則（東京国立近代美術館主任研究員）、紙屋牧子（東京国立近代美術館研究員）、鳥羽耕史（早稲田大学文学部教授）、吉原ゆかり（筑波大学准教授）、土居安子（当財団総括専門員）、鷲谷花（当財団特別専門員・研究代表者）  
\*独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業 基礎研究 (C) 平成30～32年度

### 論文集

#### 「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第32号の発行

今号も、大阪府立中央図書館国際児童文学館の資料を活用した研究論文を公募しました。5編の応募があり、2編を採用しました。

【目次】  
表紙からみた「日本少年」の特色―他誌との比較を通して―

土居安子 雑誌「少年」(時事新報社 細目(七)「石の花」の連鎖から見たプロロギエフのバレエ音楽―地底の美はどのよつに描かれたのか―

菊間史織

### 「研究ノート」

我が国における「絵本」の意味と概念  
表紙絵からみた「幼年の友」の視覚表現―前身誌「家庭教育絵は(ば)なし」を含めて―  
松本育子

雑誌「幼年の友」と岸辺福雄―観察園から感想画として自由画へ―  
浅岡靖史

「フラウンドテーブル」  
講演・視覚的要素からみた「少女の友」  
内田静枝

討論・視覚的要素からみた実業之日本社の雑誌  
内田静枝、松本育子、土居安子

## 出版や展示の企画を行いました

貴重な資料の複製や作家選集論文集など児童文学・児童文化に関わる各種出版事業の相談に応じています。

### 「進研ゼミ電子図書館まなびライブラリー」

株式会社ベネッセコーポレーションから受託し、選書の支援を行いました。

●出版社等による企画協力業務の受託「コープのえほんでスマイル」  
大阪いずみ市民生活協同組合から受託し、絵本選定、ガイドブック原稿作成を行いました。

## 資料を販売しています

●財団発行資料  
「報告集」ふしぎの描き方―あまなぎみこ&富安陽子の世界―

1,000円

## 寄付金募集のお願い!

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。ご協力を願います。

◆ゆうちょ銀行振替口座に  
払い込みください。

口座番号  
00910-8-282098

加入者名  
一般財団法人  
大阪国際児童文学振興財団

※他の金融機関からの振込の場合  
店名：〇九九店ゼロキエウキエ  
ウ店 / 店番：099 / 預金種  
目：当座 / 口座番号：0282  
098

◆平成30年度は、1,633件

1,522,523円のご寄付をいただきました。ありがとうございました。ご寄付いただいた方々のお名前を別紙をご覧ください。

## 編集後記

「大阪国際児童文学振興財団レポート第9号」をお届けいたします。当レポートでは、平成30年度に実施しました主な事業を掲載しています。公式の事業報告、決算報告はホームページで公開しています。

図書資料の寄贈・寄付金・各種の事業協力など、皆さま方のご支援・ご協力で深く感謝いたします。引き続き皆さま方のご支援をお願い申し上げます。当財団の運営について、ご意見をお願ひ申し上げます。

## 資料のご寄贈を ありがとうございました

今年度も出版社、作家、研究者同人誌サークルなどから、児童書や児童書に関する資料などの寄贈をいただきました。これらの資料は、永久保存および一般の利用に供するため、大阪府立中央図書館国際児童文学館に引き継ぎました。

(ご寄贈いただいた方々のお名前は別紙をご覧ください)

図書	2,865冊
雑誌	3,536冊
その他資料	1,247点
計	7,648点